

2015年10月22日

株式会社IHI

「2016年3月期第2四半期連結累計期間及び通期業績予想の修正」

テレフォン・カンファレンス 主な質疑応答

【F-LNG・海洋構造物事業】

1. 通期業績見通し（営業利益）を△230億円下方修正しているが、内訳を教えてください。
  - ・ 内訳としては、①シンガポール向けドリルシップ船体建造工事で約△30億円、②ノルウェー向けFPSO船体建造工事が約△140億円と一番大きく、③国内向けLNG船用SPBタンク建造工事で△40億円弱の悪化。④中国向けFSRU用SPBタンクはそれほど大きくはない。⑤原価差額等については△10数億円の悪化予想を織り込んでいる。
  
2. ドリルシップは来年3月、FPSOも来年5月の引渡し予定だったと思うが、原価が悪化しているの  
で、1Q末時点（6月末）よりも工事進捗率は増えていないと思われる。また、中国向けSPBタンク  
は今年9月末の引渡し予定だったが、未だ引き渡せていない。納期を守れなかった場合、追加コス  
トが更に発生するのか？
  - ・ それぞれのプロジェクトについて、納期が若干遅れるということで、お客さまと協議している。  
いずれについても、納期が数ヶ月延びるということを前提としたコスト積算をしている。
  
3. ドリルシップはまだ設計が固まっていないとのことだが、設計が固まる時期はいつ頃か？
  - ・ ドリルシップの設計はほぼ終了している。設計が終わって現場で作業した際、場合によっては  
後戻り作業が発生するかもしれないが、概ね終了している。
  - ・ FPSOの基本設計は8割程が終了しており、詳細設計が半分強の進捗段階にある。コストにつ  
いては「混乱した状態が今後も続く」という前提で積算した。なお、FPSOについては海外の  
外注先でのブロック建造は進んでおり、（工事進行基準経理における工事進捗率以上に）実際の  
作業はもう少し進捗している状況である。
  
4. 営業利益が上期で△200億円も大きく悪化したが、1Q決算発表時点から何が大きく変わったのか？
  - ・ ドリルシップについては「船体工事に関する改正図面は収束しつつあったが、電装関係の図面  
改正が発生した」と1Q決算発表時に説明した。今般、工程が想定以上に遅れる可能性がある  
ため、「加工工数増加と、これまで同様に後戻りが発生する」との前提で見直した。
  - ・ FPSOについては、1Q決算発表時点では全ての材料表が完成していない状況の中で、相当の見  
積りをしたつもりであったが、海外の外注先と仕様の調整等をはじめた段階で物量不足が分か  
ってきた。現在は材料表・物量表が完成し、それに基づいて物量換算し直した結果、加工工数  
も増加した。今回のコストの積算は、「ドリルシップで発生した能率の悪い状況がFPSOにお  
いても続く」という前提で算定している。

5. SPBタンク建造にあたっては、追加で80人を投入するほど影響が出てくるということか？
- ・ 国内向け SPB タンクについては、1Q 決算発表時点では、4 隻分のうち 1~2 番船までは中国向け SPB タンク建造での悪い能率が続く前提、3~4 番船については相応の習熟効果が出てくるとの前提で積算していたが、今回は「4 番船まで全て能率の悪い状況が続くかもしれない」との保守的な前提に変更した。
6. 10月21日付けでセクター長も変わっているので、愛知工場については、コーポレート主導で稼働していくという理解で良いか？
- ・ 本年7月にコーポレートからの支援が入り、愛知工場全体を見るようになったが、効果（＝どこに悪さがあるのか明らかになってきたという点）が出てきたのは8月に入ってからである。具体的な支援要員として、プロジェクトコントロール、調達管理、電装の専門家を配置し、1ヶ月半ほど掛かり、ようやく中身が見えてきたという状況である。
7. 今後の愛知工場については「コーポレートの眼を入れないと採算の良い事業ができない」となると、工場自体の抜本的な見直しも視野に入ってくるのか？
- ・ 愛知工場ならびに F-LNG・海洋構造物事業の今後の方向性については、現在検討しているところである。今後の検討状況にもよるが、検討内容については11月4日の2Q決算説明会で説明させていただきたい。

#### 【ボイラ】

8. ボイラについても原価悪化が続いているが、詳細を教えて欲しい。前期、前々期とボイラを連続して受注しているようだが、過去のボイラや今回のF-LNG・海洋構造物事業のように連鎖的な生産混乱等が起こるリスクがあるのか心配である。
- ・ ボイラについても徐々に悪化している部分がある。
  - ・ 今回の悪化は海外向け案件で、お客さまの現地工事遅れに起因して当社の作業ができず、また、資材等の保管期間が延長になる等の事象が起こったためである。その他に足場の追加といったようなお客さまからの追加事項が断続的に起こり、その都度対応している。この部分についてはお客さま事由ということもあり、請負金増額のお願いを今後していくことになる。
  - ・ 国内向け案件でも、工程遅延が発生しており、対策費用とキャッチアップのためのリソースの追加等を織り込んでいる。
  - ・ 過去のような工程混乱の連鎖は起こっていない。個々のプロジェクトで個々の特殊な事象が起こり、追加のコストを織り込まざるを得なくなったという状況である。

以上